



四万十町
町内ぶらり散策

若井川



金

上野から国道56号を南下。窪川運動場を過ぎ、坂を登り切ると間もなく峰の上の点滅信号がある。これを右折（西へ）。600mほど行ったところからが若井川である。若井川地区は、上・中・下に分かれている。峰の上の奥から流れる若井川に沿って開けた、東西2kmほどの日当たり抜群の集落である。

こんな逸話が残っている。戦国期、興津生まれの浪人で中西権七という豪傑がいた。その勇敢さを伝え聞いた窪川郷領主が彼を家来に召抱えようとしたのだが、権七は領主を軽視しきつぱりと跳ね返した。これに領主は激昂。権七討伐の命が下り、彼は「おたずね者」となる。何度かのピンチを切り抜けたものの、とうとう追い詰められた権七は、峰の上から若井川に沿って逃げ、高野との境になる冬越峠で果てたといわれる。

この若井川地区は、農業用水などに苦労してきた歴史がある。明治の初め、地区を豊かな農地に変えるべく尽力した宮崎丈次という「スーパード百姓」がいた。彼の功績を讃える碑が、地区（下）の集会所前にあるのだが、彼の次男で、のちに吾川村の川洲家の養子となった川洲治馬（こうま）の誕生記念碑も、若井川小学校跡から少し東に行ったところに建っている。川洲治馬は、幼い頃から聡明で、学業の成績もすこぶる優秀だった。東京帝国大学法科を卒業後は警視庁へ。



川洲治馬の誕生記念碑

一年間の欧米留学から帰国後、京都府警の部長職などを経て、広島県・山形県・福岡県の知事を歴任。さらには高知市長を二期務めたという、なかなかの傑物である。

地区に「長福寺」というお寺があった。五社さんにあつたとされる福円満寺には、末寺のような存在が十二寺あつたが、長福寺はそのうちのひとつであつた。江戸中期までは近隣に多くの「寺領」を有しており、その存在はかなりのものであつたと推察される。しかし、享保年間に久礼の禅寺・常賢寺の末寺となり、永昌寺と改称した後退転した。現在は十一面観音や薬師如来、地藏菩薩、不動明王などを祀るお堂が残っている。

さて、川洲治馬の誕生記念碑の向かい側に目をやると、山裾に一つ灯籠が見える。昔の街灯である。基盤整備を行つた時に現在の場所に移動したらしい。今でも旧暦の9日には必ず火を灯すのだという。「暗闇に揺れる灯りがなんとも風情がある」と、地区の方が教えてくれた。

現在60世帯、115人が暮らしています。

町のうごき

(4月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,928	32	男 3	10	58	19
女	8,715	-11	女 2	13	34	34
計	16,643	21	計 5	23	92	53
世帯数	8,406	30	(4月中の届出)			

窪川地域 11,778人 大正地域 2,324人 十和地域 2,541人

四万十川の水質状況

新型コロナウイルス予防対策の一環により学校休校があつたため、5月の水質検査をお休みします。

四万十町通信

2020.6月号

Vol.171 (毎月10日発行)

●発行／四万十町企画課

●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎ (0880) 22-3124

FAX (0880) 22-3123

UD FONT
by MORISAWA

本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。